



佐野皮膚科

プレスリリース

皮膚炎を伴わないそう痒症は血清亜鉛欠乏が原因であることを証明

高知大学名誉教授・佐野皮膚科(西宮市)院長らの研究チームの論文が、エルゼビア社の英文国際雑誌「Journal of Dermatological Science」(日本研究皮膚科学会発行)に掲載されました。

湿疹や蕁麻疹など皮膚炎症は伴わず、一見何も無い皮膚に生じるそう痒症(非炎症性そう痒: non-inflammatory pruritus, NIP)の患者さんの数は非常に多い。NIP 患者さんではステロイド軟膏や抗ヒスタミン薬は無効であり、いままで有効な治療法が無かった。

今回、本研究チームは、皮膚搔痒のない対照群(73 例)、湿疹など炎症によるそう痒群(41 例)と NIP 群(32 例)の 3 群を解析したところ、NIP 群全例に亜鉛欠乏を認めた。また、これらの患者においては亜鉛製剤を投与すると血清亜鉛値の正常化にともない、88%の症例でそう痒が軽減～消失した。

NIP 同様のそう痒は、モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬の副作用でも生じることが知られている。我々は、血清亜鉛が欠乏したマウスを使って、モルヒネ投与による NIP 誘導実験を施行した。亜鉛欠乏マウスにおいては正常マウスにくらべて、モルヒネ投与による搔爬行動が著明に増加していることが明らかになった。これは、亜鉛が、中枢神経のモルヒネなどを感知する μ オピオイド受容体の感受性を制御していることを示す。一方、 μ オピオイド受容体シグナルに拮抗してそう痒を抑制する κ オピオイド受容体薬を投与するとモルヒネによる亜鉛欠乏マウスのそう痒が消失した。

以上の結果から、NIP 患者さんにおいて亜鉛が欠乏することで中枢神経の μ オピオイド受容体刺激が過剰になってそう痒が誘導されている可能性が示された。今後、皮膚になんら所見のないそう痒の患者さんにおいては、亜鉛欠乏を疑い亜鉛製剤を投与することが第一の治療法となることが、我々の研究で示された。

<論文名>

A zinc deficiency leads to non-inflammatory pruritus by modifying opioid receptor signaling

<和訳>

亜鉛欠乏はオピオイド受容体シグナルを修飾することにより、非炎症性の皮膚掻痒を誘導する

論文 URL: [https://www.jdsjournal.com/article/S0923-1811\(26\)00106-4/abstract](https://www.jdsjournal.com/article/S0923-1811(26)00106-4/abstract)

Published online May 28, 2026

【本件にかかる問い合わせ先】

佐野皮膚科

佐野栄紀 院長 sano.derma@sanohifuka.jp

Tel: 0798-40-7272

(株)ストロベリーフィールズ